

SMILE TSUSHIN by ITO SUGURU



# スマイル・通信



笑顔あふれる須磨のまち

兵庫県議会議員

## 伊藤すぐる

平成 31 年 2 月

## 第 343 回 定例会

兵庫県議会ホームページにて  
議会の録画映像が観られます。

<http://www.hyogokengikai.jp/broadcast/>

平成 31 年 2 月第 343 回定例会において、下記内容の一般質問をいたしました。

### 地域事情に合わせた駅舎のバリアフリー化推進について

駅舎等のバリアフリー化に対する県の支援は、平均利用者人数等の基準を設け優先順位を決め進められてきた。昨年、ユニバーサル社会推進条例を制定した兵庫県として地域事情に合わせ進めていくべきであると考え。特に山陽電鉄東須磨駅、JR 須磨駅南側へのエレベーター設置に関して当局の見解を伺う。



JR 須磨駅より海岸へ降りるときに渡らなければならない踏切

#### 奥原まちづくり部長

高齢者等の利用が多い山陽電鉄東須磨駅、バリアフリー化済みでも海岸に下りられない JR 須磨駅は、何れも支援の対象とする。今後とも、誰もが安心して暮らし、活動できるユニバーサル社会の実現に向けて地域事情に合わせた駅舎のバリアフリー化を進めていく。

### 山陽電鉄東須磨駅・JR 須磨駅南側へのエレベーター設置予算化を実現！

2月7日、須磨区長より、山陽電鉄 東須磨駅、JR 須磨駅南側へのエレベーター設置に関する要望書を頂き 2月21日、本会議の一般質問で取り上げました。長年取り組んで来ましたが、ついに兵庫県での予算化を実現いたしました。



## 再犯防止策推進に対する兵庫県の役割について

去る1月25日、山下法務大臣を訪問し兵庫が取り組む新たな施策の説明と協力要請を行った。矯正局担当の法務大臣官房審議官から、兵庫県の取り組みは先進的であり国の「再犯防止推進計画」は兵庫の取り組みをモデルにしたとの言葉をいただいた。大臣は、兵庫の取り組みに協力し全国的に広めていきたいと述べられた。以上を鑑み、全国のモデルとなりうる再犯防止推進が兵庫の担う役割であると考え、当局の所見を伺う。

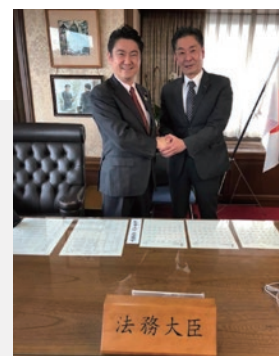
### 松森女性生活部長

再犯防止は、罪を犯した者を自立に導くことが必要である。県ではこれまで全国に先駆け就労支援として職場訪問や就業相談の実施、協力雇用主への国の奨励金制度の上乗せ人件費補助、保護観察対象者等を雇用した業者に対する入札時の加点等を実施してきた。全国初となるコレワーク西日本が神戸に出向き、事業主の相談を受ける「出張コレワーク」の開催、高齢や障がいのある出所者等への福祉支援の中心となる市町と県との連絡会議の設置を行う。次期の「地域安全まちづくり計画」を立て、地方再犯防止計画と兼ね、推進していく。今後とも、国、県、市町、関係団体、事業者等と連携し、より安心・安全な兵庫の実現を目指す。

### 山下法務大臣に面会！

法務省から要請があり、兵庫県議会議員4名、神戸市会議員1名と共に法務省を訪れ、山下法務大臣に面会し、兵庫の新たな取り組みに対する支援を要望して参りました。

翌日、法務省ホームページ・神戸新聞に掲載されました。



### 日本初となる法務省&兵庫県コラボ企画

### 「加古川刑務所スタディツアー」実現！

私が提案した企画が、加古川刑務所で開催されました。法務省関係者、刑務所出所者等を雇い入れて良いという企業、個人の皆さま、兵庫県、市町行政等関係者の方々が参加されました。刑務作業をする受刑者が実際に作業する姿を見て、偏見を無くすこと。法務省や兵庫県、関係団体の取り組みや支援を説明し、企業や個人に出所者の雇用を促すことを目的にした「加古川刑務所スタディツアー」事業説明会です。読売テレビ「ten」他テレビ番組、新聞等マスコミより注目されました。



## がん対策推進条例制定を契機としたがん医療の推進について

### (1) 実効性あるがん医療の推進について

#### 井戸知事

がん診療連携拠点病院を中心としたがん医療提供体制の整備への支援と県民に対する医療に関する正しい知識の普及を図ることにより、実効性のあるがん医療体制のより一層の充実に取り組んでいく。

### (2) がん対策推進条例制定に対する病院局の意気込みと県立がんセンターの役割

#### 長嶋病院事業管理者

県内唯一の都道府県がん診療拠点病院として、本条例の目的であるがん対策の一層の推進を図るべく、新しいがんセンターの整備を進めていく。

## 漆喰壁 10% へ向けた左官職人育成、技術継承について

現在、高齢化や新規就業者の減少などで、左官職人が激減している。「ものづくり兵庫」を目指す我が県として、次世代へ日本の左官職人の技を継承する支援が必要であると考え、知事のご所見を伺う。

### 井戸知事

来年度に整備予定の初代県庁舎復元等、県発注の建築工事で、用途に応じて漆喰壁を採用していく。今後とも、左官職人をはじめとし、建築人材確保に向けて、引き続き建設業界等と連携して取り組む。

## ローカルサーモン養殖に対する支援について

平成 25 年に姫路市で、平成 27 年には南あわじ市でローカルサーモン養殖が開始、平成 28 年からは宍粟市でニジマス養殖と自家採苗の取り組みが始まった。この宍粟市の種苗を利用して、赤穂市、神戸市須磨区、垂水区での純兵庫県産サーモン養殖試験が開始された。都市近郊で養殖された生サーモンは、神戸ビーフに次ぐ県の名産品になりうる可能性を持っている。新たな事業への経済的・技術、販路拡大への支援について当局の見解を伺う。

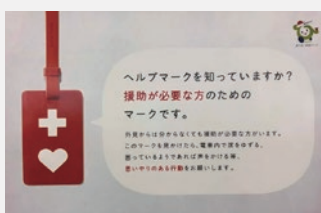
### 藤澤農政環境部長

ローカルサーモンの発展に大いに期待をしている。成長の早い雌だけを生産する種苗生産技術の開発、海水馴致の時期をより早める育成技術の開発。観光や商工団体ともタイアップしながら、県内でのブランド育成を支援する。ローカルサーモン養殖の拡大と漁業経営の安定に努める。



### 須磨海岸でサーモンの養殖を実現！

「神戸サーモン」は、20 年来の夢でした。初めてこの話を出したのは、県議になってすぐの頃。当時は、内水面漁協の皆様からも、県当局からも失笑されたのを覚えています。数年前に初めて県で予算が付き、現在は県下各地に広がっております。昨年より、須磨区、垂水区でも養殖がスタート、正に今、須磨海岸で兵庫県初となる純県産サーモンが育っております。第 2 の神戸ビーフを目指して！！須磨を元気に！！全力です！！



### 「ひょうご・スマイル条例」制定！「ヘルプマーク」の採用実現！

平成 29 年年度、健康福祉常任委員長として、県政 150 年で初となる常任委員会発議の「ひょうご・スマイル条例」を制定。参加したユニバーサル条例制定委員会において、ヘルプマークの兵庫県での採用を提案し、予算化を実現。ヘルプマークは、他人を思いやる気持ちを育む大切な教材でもあります。県内の全公立高校にポスターを掲示し、ヘルプマークの啓発を行います。



小西たかのり  
兵庫県議会副議長（篠山市）

昨年、2 月定例会において、ユニバーサル社会推進条例と共に、兵庫県政 150 年で初となる常任委員会発議条例、障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例「ひょうご・スマイル条例」を制定致しました。発案は健康福祉常任委員会 伊藤すぐる委員長でした。私も同委員会に所属、条例制定へ向け立ち上げた検討委員会座長として協力を致しました。いや協力ではありません。議会活性化を目指す同志としてです。

そして、全県民の安心、安全に繋がる全国初となる貴重な条例を制定することが出来ました。現在、同条例を研究するため他府県議会より視察が続いております。知事のご挨拶でもよく出てまいります。今年は、ユニバーサル元年。ヘルプマークの採用を始め多くの施策が施行されます。

県民全ての力を結集し、ユニバーサル社会構築を目指しましょう。

## 「須磨浦普賢象桜」の植樹実現！

2月2日は、待ちに待った「須磨浦普賢象桜」の植樹式が久元神戸市長ご参加のもと、盛大に開催されました。昨年4月に兵庫県公館で植樹された5本の須磨浦普賢象を発見し看板設置を依頼しましたが、発見された須磨浦公園には、もう残っていないことを知りました。神戸市に対してお願いしたところ、50本を須磨浦公園に植樹されました。後日100本が須磨区内各所にも植樹されます。須磨区役所へも植樹されました。



# Mission 次期4年間への取り組み

## 立場を超え一丸となり 児童虐待ゼロへ

兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザー

島田 妙子



兵庫県児童虐待等対応専門アドバイザーの島田妙子です。児童虐待により命を落とす事件が続いています。子どもは未来を支える宝です。虐待防止は事が起こらないようにしていくこと。子どもを助けるのは当然の事ですが、それは対応です。子どもたちのそばにいる大人の心を救っていくことが、子どもたちを救うことにつながります。感情表現に困っていらっしゃる方、また虐待だと思ってない方に、適切なプログラムの導入等が必要だと思っています。またこれから大人になっていく子どもたちにも、義務教育の中で感情表現の教育を盛り込み、虐待防止、DV防止、いじめ防止、自殺防止を進めていただきたいと願っております。また、児童虐待防止条例の見直しも急務だと感じています。兵庫県のアドバイザーとして、また兵庫出身者としてご協力できればと思っております。

兵庫県議会議員

迎山 しほ



相次ぐ子供への虐待、なぜこうも痛ましい事件が増えているのでしょうか。その要因は育児不安や夫婦間のDV、貧困、障害、望まない妊娠など様々に重なっていますが、根底にあるのは孤立です。児童虐待は事後の対処ばかりがフォーカスされますが、未然に防ぐ観点が必要であり、孤独の中で悩む親子をどう支援に繋げるかが重要です。例えば児童相談所は親子が追い詰められる前に十分な相談ができる機関となり得ているのでしょうか。私自身も子育てをする中で、虐待には至らなくても、辛く苦しい思いを幾度も実感しています。周囲の親の多くもそうです。完璧な親はいません。誰もが悩み、失敗し、反省しながら子育てしています。そんな当たり前を社会が共有し、助け合えるよう、政治が出来ることは全てやる。様々な機関が協力体制を敷いて、この世に生まれてきてくれた全ての子供達が愛され、幸せに暮らせるように力を尽くして参ります。

兵庫県議会議員

中田 慎也



目を背けたくくなるような児童虐待事件が相次いでいます。私も幼稚園に通う小さなふたりの娘をもつ親として、さまざまな感情が込みあげてきます。こんなこと、二度と起こしてはなりません。この1年間、児童虐待について調査を続けてきました。そもそも家族の離別と再統合という、相反する業務を児童相談所が一手に引き受けるのは無理があります。家庭介入は「警察」、家庭支援は「児童相談所」として対応していくのがベターであり、虐待案件は警察と児童相談所がすべて情報共有すべきです。そして、中長期的には親が親として成長し、支え合える環境づくりを支援すべきだと思います。今後もこの問題に取り組んでいく所存です。しかし、政治家だけでできることには限界があります。どうか皆様も虐待の兆候が見られたら、警察に通報するなど、救いの手を差し伸べてあげてください。



伊藤 すぐる

児童虐待は傷害罪であり命を奪う虐待は殺人罪である。犯罪を未然に防ぐ、犯罪を取り締まるのは、警察の仕事であり、多くの子どもの命が奪われている現状を打破するには、行政の相談窓口設置等では対応しきれないのが現実である。明日奪われるかも知れない命を守るには躊躇は許されない。今日から虐待死ゼロにするには、警察の積極的な関与が必要不可欠である。それと同時に進行で、先を見据えた虐待ゼロへ向けた取り組みも重要である。それは、党派を超え議員が目標を一とし取り組む政治力であり、様々な立場で協力し合える県民の力、地域のチカラであるとする。全県民で力を合わせ虐待死ゼロ、虐待ゼロの優しく温かい兵庫県を目指しましょう。私達県議会は「児童虐待ゼロ」への思い一つに、引き続き覚悟を持って取り組んでいきます。

ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

伊藤すぐる事務所

〒654-0024 神戸市須磨区大田町 2-2-8 ロイヤルトップレジデンス 1F-B TEL.FAX 078-736-2858

県議会自民党控室

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL 078-362-3725 FAX 078-351-0136

Eメール hyogokengikai.ito.suguru@gmail.com